

3

学生生活について

心身の健康..... 30

心身ともに健康な状態の学生は**9割**、
健康がすぐれないと感じる学生は心身の健康と対人関係が悩み
「健康である」、「ほぼ健康である」 **89.9%**

学生生活での不安や悩み..... 32

「進路・就職等」への不安と悩みは3年生でピーク
3年生時の「進路・就職等」への不安や悩みは**77.8%**

相談相手..... 34

相談相手は友人に次いで家族
年々、家族に相談する傾向が増加
「友人」 **68.1%**、「家族」 **46.7%**

学生のマナー..... 36

気になるのは授業・ゼミ中の私語、喫煙マナー、
立看板・ビラ・ポスターの大量消費
「授業・ゼミ中の私語」 **30.3%**、「喫煙マナー」 **13.9%**、
立看板・ビラ・ポスターの大量消費 **10.7%**

異文化交流への関心..... 38

全体の**8割**が学生相互の異文化交流に関心有り
男性よりも女性の、学部学生より大学院学生の関心が高い
異文化交流に関心が「ある」、「ややある」 **79.7%**

異文化交流の機会..... 40

異文化交流のとらえ方はさまざま
交流の機会、場所：「所属する学部・研究科の授業」 **34.2%**、
「自分が所属するサークル活動の場」 **26.1%**





心身ともに健康な状態の学生は9割、健康がすぐれないと感じる学生は心身の健康と対人関係が悩み

心身の健康

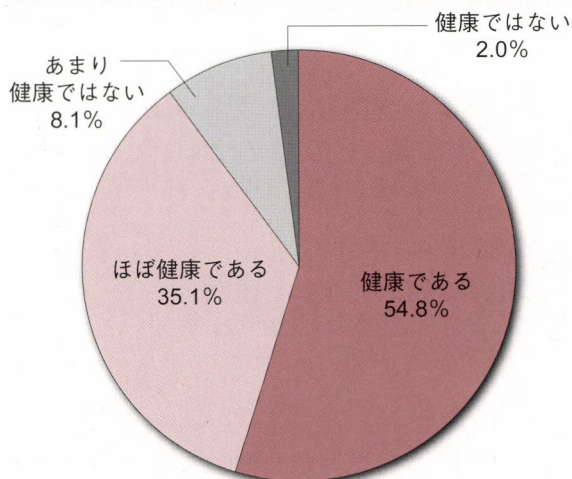
POINT

「健康である」、「ほぼ健康である」89.9%

心身ともに「健康である」、「ほぼ健康である」と回答した学生は全体の9割でした。この傾向は、性別や学年、所属キャンパス、自宅か否かといった点で、有意な差は見られませんでした。全体的には「あまり健康ではない」、「健康ではない」という学生は1割と少ないように思えますが、健康な状態にないと感じている場合には、この調査への参加率は落ちると推測できますので、健康問題を抱える学生は実際には多くいるのかもしれません。グラフには示していませんが、授業への出席率についての質問項目の結果とあわせてみると、「あまり健康ではない」、「健康ではない」という学生のほぼ半数は、授業への出席率がやや低下する傾向がありました。学生の健康維持をサポートするには、出席状況をケアする必要があることを示唆しているのではないのでしょうか。

「あまり健康ではない」、「健康ではない」と回答した場合には、「心身の健康」、「対人関係」、「家族関係」の不安や悩みを抱えているケースが、「健康である」、「ほぼ健康である」学生と比べて多いようです。また、悩みの相談相手は、自分が健康と感じる度合が下がるにしたがって「相談できる人がいない」、「誰に相談してよいか分からない」、

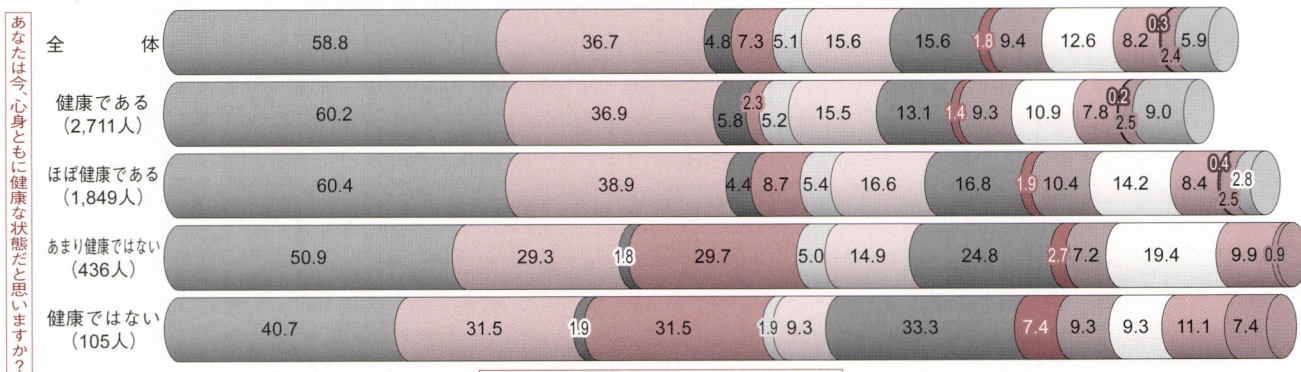
あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障が無い程度）だと思いますか？



「相談したくない」の割合が増える傾向があります。悩みや不安を一人で抱え込んでしまうことがないように、気をつけてほしいものです。気軽に、総合健康教育センター学生相談室や教職員を訪ねてみてはいかがでしょうか。また、皆さんの周囲で気になる人がいる場合も、大学に知らせてもらうことが、状況を改善する1つのきっかけになるかもしれません。

あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障が無い程度）だと思いますか？

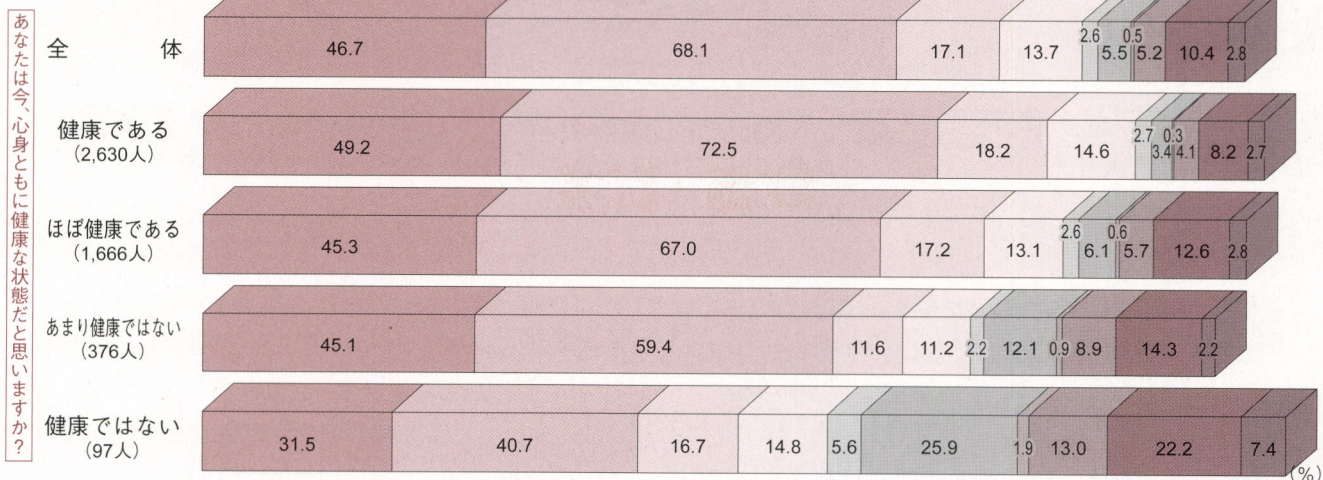
凡例 学生生活での不安や悩みを教えてください [複数回答可]



学生生活での不安や悩みを教えてください

進路・就職等 勉強 留学 心身の健康 アルバイト 経済問題 対人関係 家族関係
恋愛問題 性格・能力 人生観 セクシュアル・ハラスメント その他 不安や悩みはない

クロス集計 あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障が無い程度）だと思いますか？
凡例 不安や悩みは誰に相談しますか？ [複数回答可]



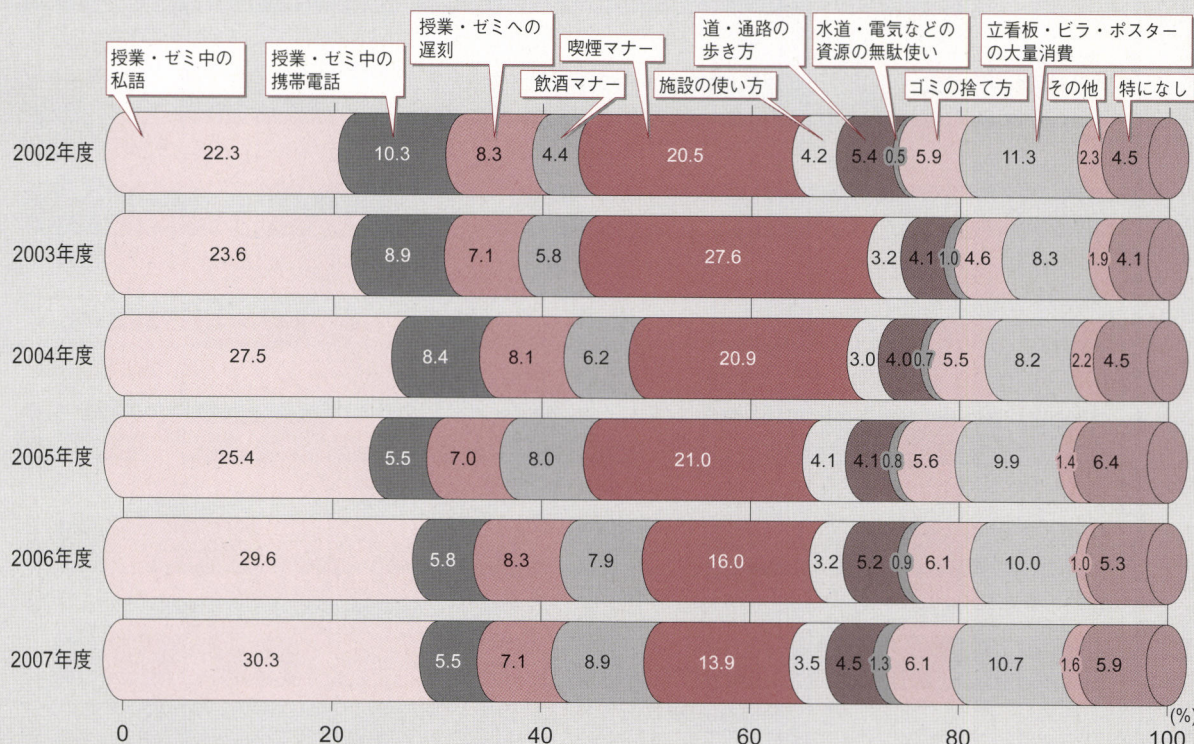
不安や悩みは誰に相談しますか？

家族 友人 恋人 先輩 教職員 相談できる人がいない
総合健康教育センター学生相談室 誰に相談してよいかわからない 相談したくない その他

コラム

学生のマナーが最も悪いと思われるものとして、過去6年間に於いて「授業・ゼミ中の私語」が03年度を除いて最も多くなっています。07年度については、「授業・ゼミ中の私語」、「授業・ゼミ中の携帯電話」、「授業・ゼミへの遅刻」を合わせますと、42.9%と約4割が授業中におけるマナー違反となっています。

また、「喫煙マナー」も「授業・ゼミ中の私語」に次いであげられています。特に、歩きタバコや指定喫煙場所以外での喫煙等に対する苦情が大学に多く寄せられています。喫煙マナーを守り、全学生が快適に学べるキャンパスにしましょう。





「進路・就職等」への不安と悩みは 3年生でピーク

学生生活での
不安や悩み

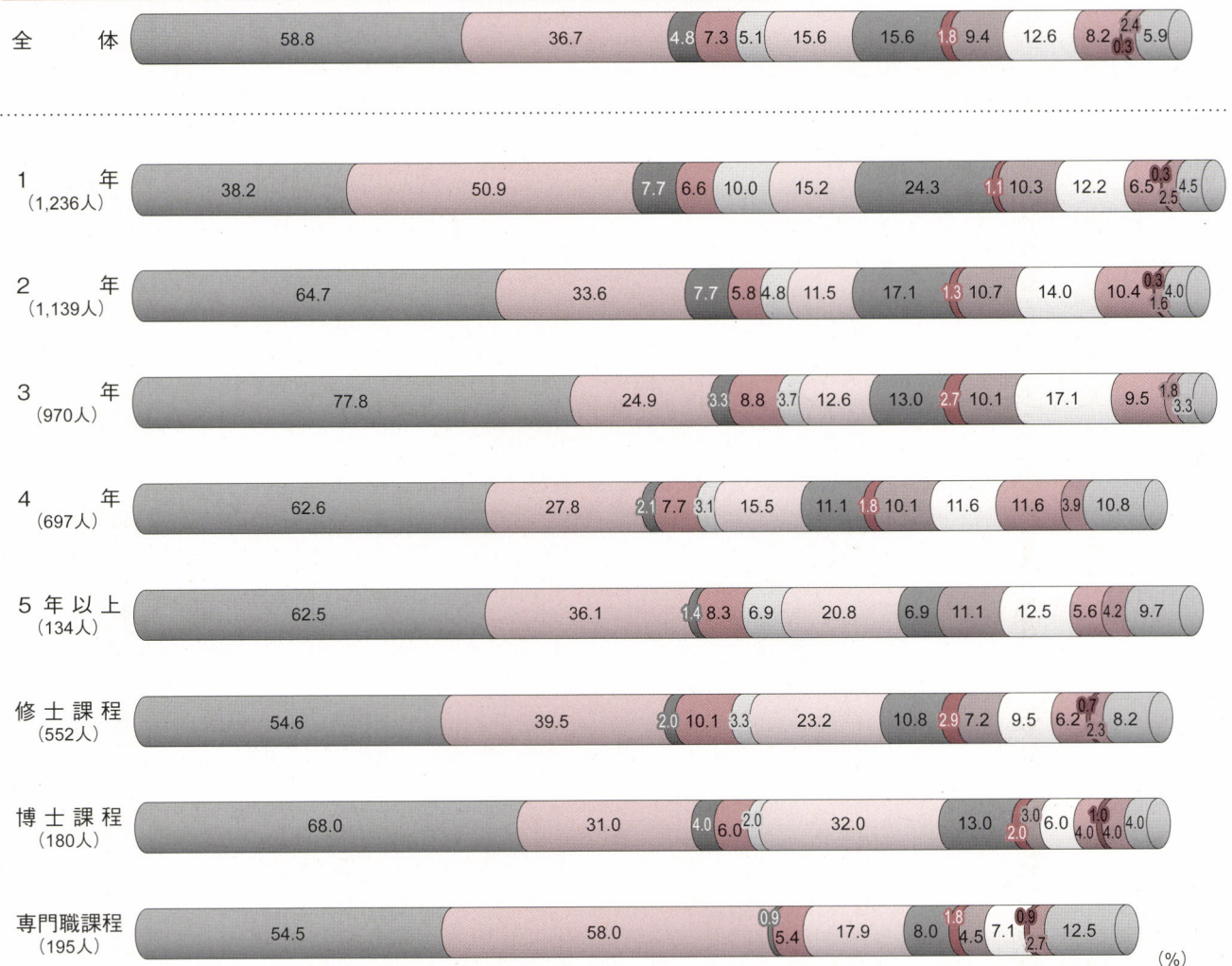
POINT

3年生時の「進路・就職等」への不安や悩みは**77.8%**

学生生活で感じている不安や悩みについては、1年生では「勉強」の割合が高く、学年が上がる
と「進路・就職等」の割合が増加し、3年生でピークとなります。1年生では、他の学年に比べて、「アルバイト」、「留学」、「対人関係」を多く挙げる傾向がみられました。2年生では、「留学」を多く挙げています。3年生では「進路・就職等」の他に、「性格・能力」を他の学年に比べて多く挙

げる傾向がみられます。本格的に進路選択を考える際に自分を見つめ直したことによるものでしょうか。4年生では「人生観」を多く挙げる傾向がありました。修士課程・博士課程では「経済問題」が、他の学年に比べて多く挙げられています。博士課程では、「進路・就職等」が最も多く、次いで「勉強」と「経済問題」がほぼ同じ割合で選択されています。

学生生活での不安や悩みを教えてください [複数回答可] 学年別



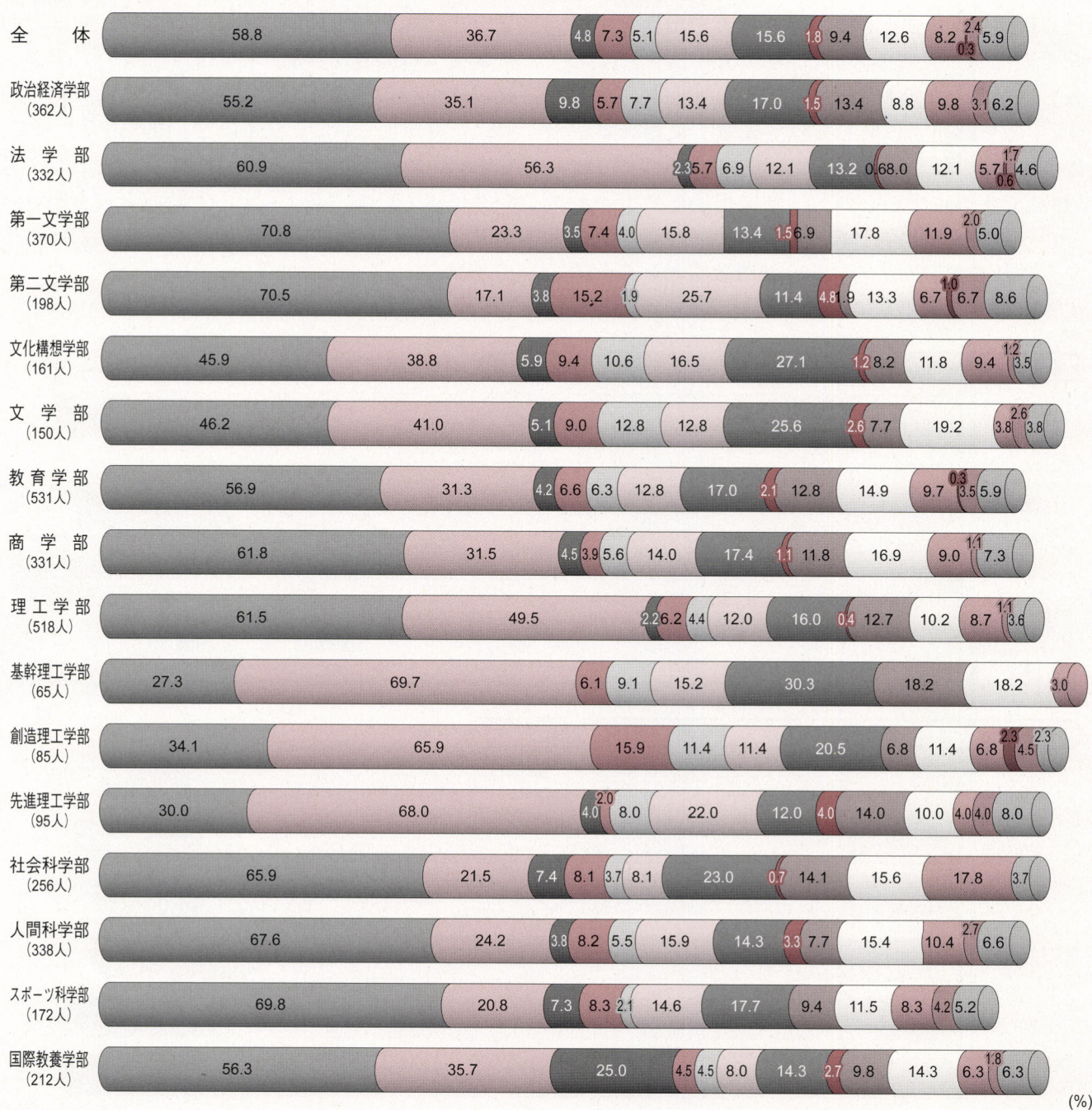
進路・就職等 勉強 留学 心身の健康 アルバイト 経済問題 対人関係 家族関係
恋愛問題 性格・能力 人生観 セクシュアル・ハラスメント その他 不安や悩みはない

学部別にみると、理工学部では「勉強」を多く挙げる傾向があります。本年度創設の基幹理工学部・創造理工学部・先進理工学部の回答者は1年生のみで個別の回答数は少ないですが、やはり「勉強」が多く挙げられています。政治経済学部と国際教養学部では「留学」を、社会科学部では「人生観」を多く挙げる傾向がありました。学部で扱う領域が反映しているのでしょうか。その他、統計上は有意な違いではないものの、学部毎の特徴はみられます。大学院は各研究科の回答数

が全体的に少ないのでここでは比較しませんが、学部同様に特徴的な傾向がありますので、各箇所対策を考える材料になると思います。

グラフには示していませんが、学部学生の学年別の回答傾向は05年度、06年度とほぼ同じでした。ただし、3年生、5年生以上、博士課程、専門職課程で「進路・就職等」の選択率が06年度に比べて増加しました。また、1年生で「留学」を挙げる率も06年に比べて増加しており、入学と同時に「留学」を意識する傾向がみられます。

学生生活での不安や悩みを教えてください [複数回答可] 所属箇所別



進路・就職等 勉強 留学 心身の健康 アルバイト 経済問題 対人関係 家族関係
恋愛問題 性格・能力 人生観 セクシュアル・ハラスメント その他 不安や悩みはない



相談相手は友人に次いで家族 年々、家族に相談する傾向が増加

相談相手

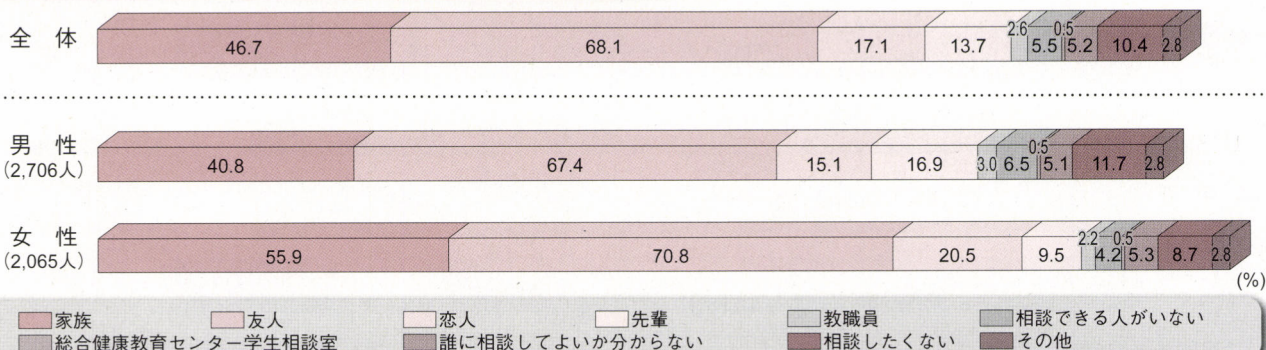
POINT 「友人」 **68.1%**、「家族」 **46.7%**

不安や悩みの相談相手は「友人」が最も多く、次いで「家族」となっています。男女別にみると、男性は「先輩」、女性は「家族」を多く挙げる傾向がありました。不安や悩みの項目と相談相手の関係を見てみると、「家族」、「友人」、「恋人」には様々な悩みを相談している傾向があります。「恋愛問題」に関しては「先輩」に相談するようです。「対人関係」、「性格・能力」については、「相談できる人がいない」、「誰に相談してよいかわからない」、「相談したくない」という傾向が強くなります。大学の「総合健康教育センター学生相談室」を利用してほしいところです。事務所

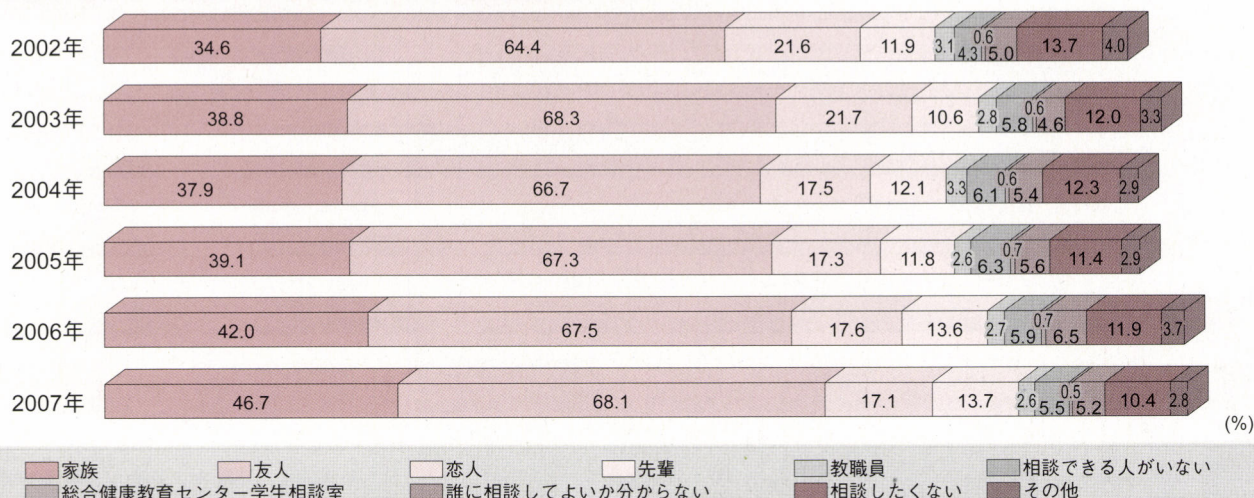
や研究室の教職員を訪ねることも、解決の糸口になるかもしれません。

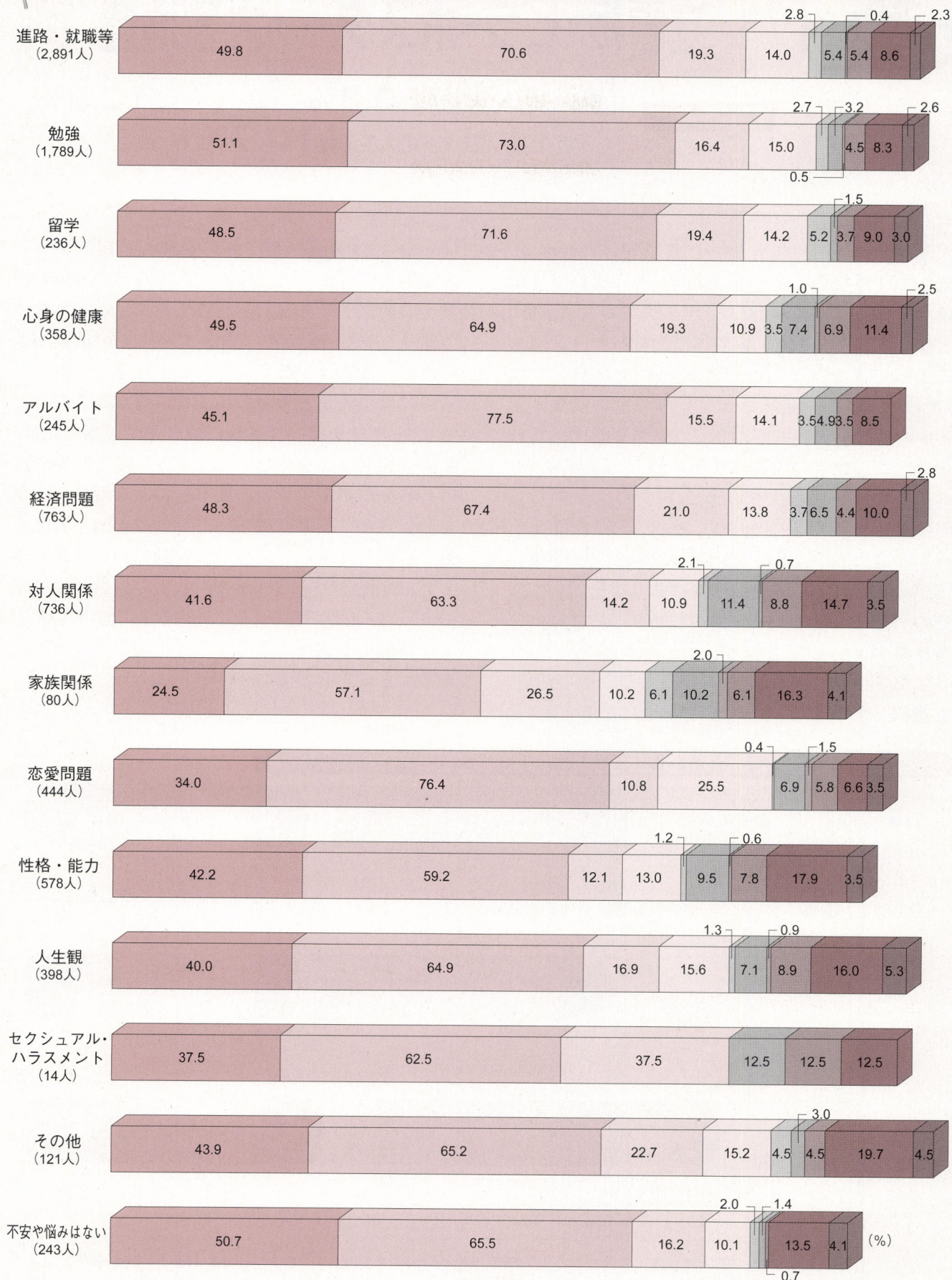
相談相手について、ここ数年の変化を見てみると、ここ数年増加傾向にあった「家族」が、今回の調査では大きく増加しています。また、大学生生活の充実度の結果とあわせてみると、例年同様、充実「している」学生ほど、相談相手として、「友人」をあげる割合が高くなっていました。大学生活において、ちょっとした悩みを打ち明けられる「友人」の存在は大切だということがいえそうです。

不安や悩みは誰に相談しますか？ [複数回答可] 男女別



不安や悩みは誰に相談しますか？ [複数回答可] (経年変化)





家族 友人 恋人 先輩 教職員 相談できる人がいない
 総合健康教育センター学生相談室 誰に相談してよいかわからない 相談したくない その他



気になるのは授業・ゼミ中の私語、喫煙マナー、立看板・ビラ・ポスターの大量消費

学生のマナー

POINT

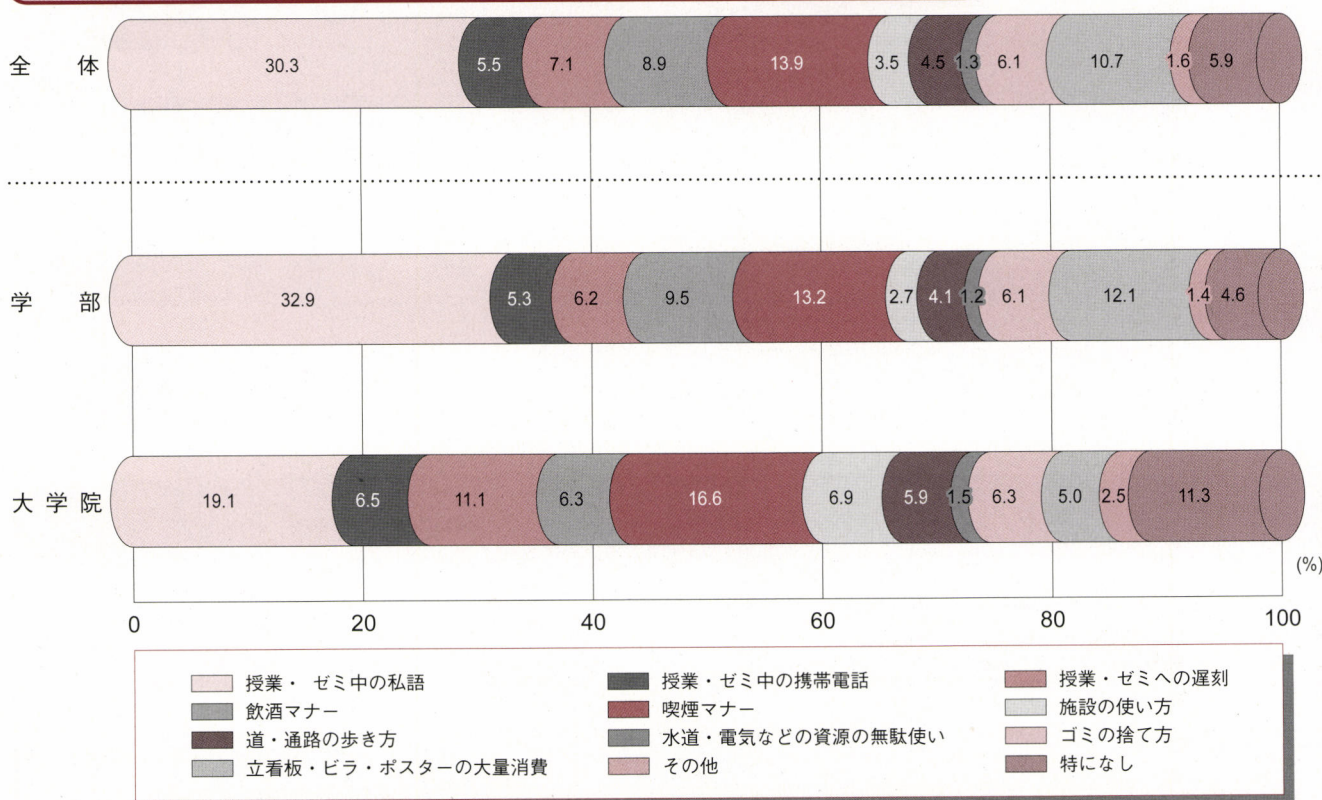
「授業・ゼミ中の私語」**30.3%**、「喫煙マナー」**13.9%**、
立看板・ビラ・ポスターの大量消費**10.7%**

学生のマナーが最も悪いと感じている項目は、全体では「授業・ゼミ中の私語」で、次いで「喫煙マナー」、「立看板・ビラ・ポスターの大量消費」となりました。また、回答の傾向は、キャンパスによって異なりました。大久保キャンパスでは「喫煙マナー」、所沢キャンパスでは「授業・ゼミ中の私語」の回答率が高くなっています。これらは、ここ数年の調査結果とおおよそ同傾向（31ページコラム参照）で、残念ながら、改善しているわけではなさそうです。ただし、「喫煙マナー」の選択率は、21%（05年度）、16.0%（06年度）、13.9%（07年度）と減少傾向にはあります。しかし、その一方で「授業・ゼミ中の私語」が増加傾向にあります。

学部学生では、約3割が「授業・ゼミ中の私語」を選択していますが、大学院学生になると2割程

度となり、「授業・ゼミへの遅刻」を選択する割合が増えています。一般に、大学院学生の方が授業への興味が「ある」と回答する割合が高くなっており（8ページ参照）、加えて少人数の講義が多いため、私語は少なく、遅刻者が目立って気になるのではないかと考えられます。当たり前のことですが、興味をもって講義に臨む学生が増えれば、私語や遅刻は少なくなるでしょう。学生の皆さんは、自分が出席している授業への関心度はいかがでしょうか。授業に限らず、自分の志向や興味を見つめ直してみると、自身の行動について考えるところがあるかもしれません。一方、教員は授業のやり方をより一層工夫し、大学側は学生が希望する講義の登録ができるような環境を整えることが、引き続き必要でしょう。

学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください。 学部・大学院別

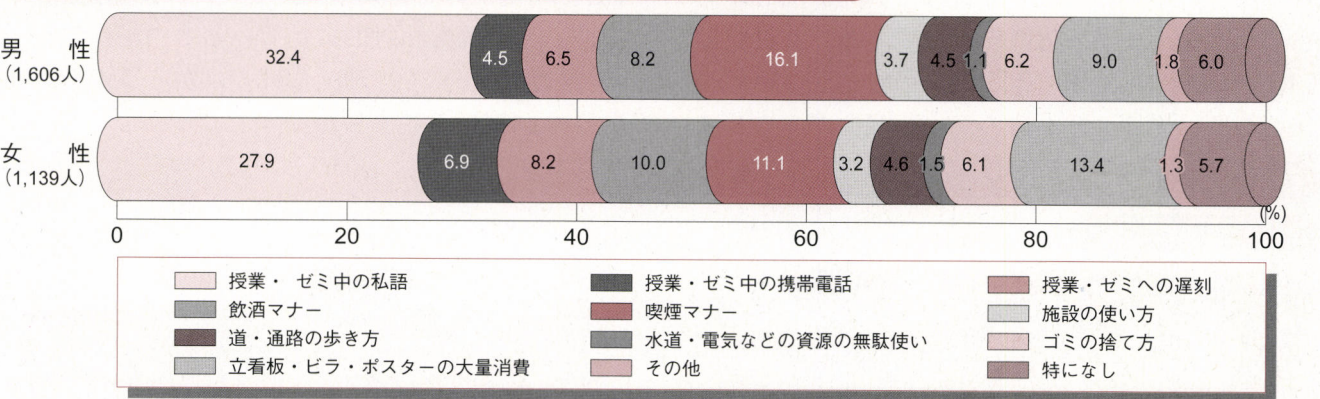


今回の結果を見て、皆さんはどのようなことを考えたでしょうか。このようなマナー違反を、自分以外の立場の人はどのように感じているのか、ということをもう少し意識してみてはいかがでしょうか。例えば、男性は女性に比べて「喫煙マナー」を選択した割合が高く、逆に女性は「立看板・ビラ・ポスターの大量消費」を選択した割合が高い傾向がありました。このような立場や関心の違いを意識して行動することが、状況の改善につながるの

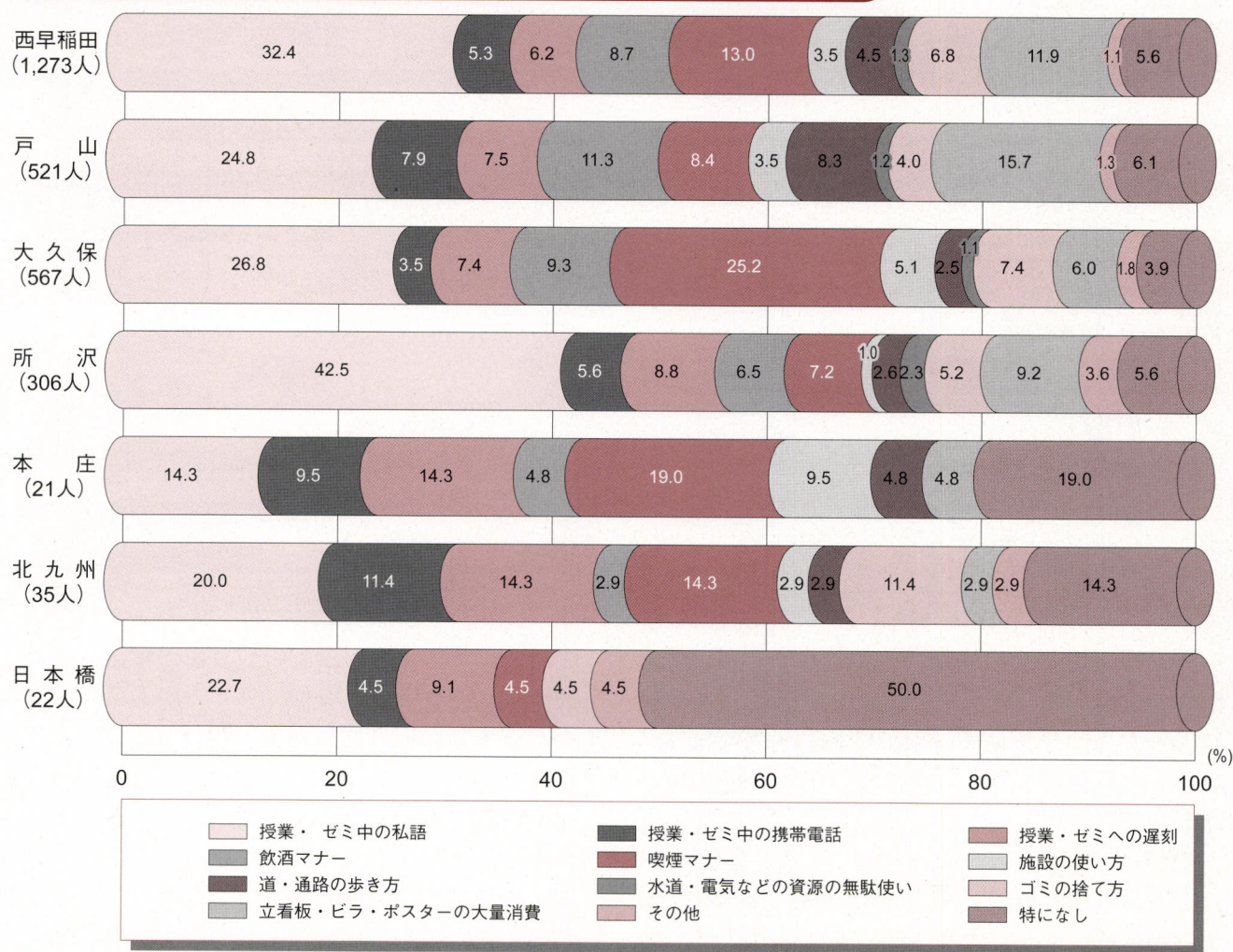
ではないでしょうか。

自由記述でも、学生のマナーの悪さに関する記述が多く見られ、回答者の皆さんが普段から嫌な思いをしたり、気に病んだりしている様子がうかがえました。気持ちよく過ごせるキャンパスでなければ、やる気はそがれてしまいます。学生も教職員も、今一度自分の行動を振り返ってみる必要があります。

学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください。 男女別



学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください。 キャンパス別





全体の8割が学生相互の異文化交流に関心有り 男性よりも女性の、学部学生より大学院学生の関心が高い

異文化交流への
関心

POINT

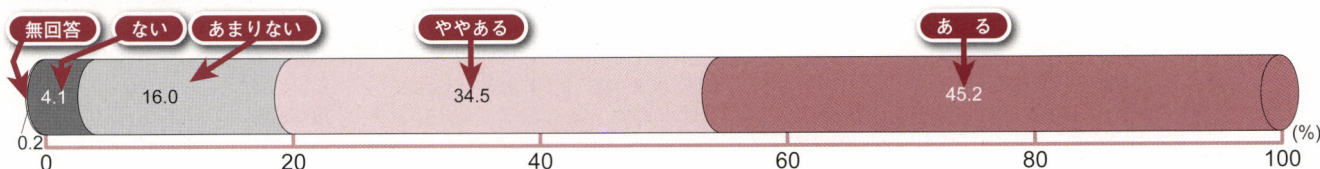
異文化交流に関心が「ある」、「ややある」 **79.7%**

全体の約8割が、学生相互の異文化交流に関心が「ある」、「ややある」と答えており、関心の高さがうかがえます。男女を比較すると、女性では「ある」との回答が5割に達し、「あまりない」の回答が多い男性よりも関心が高い傾向がみられます。

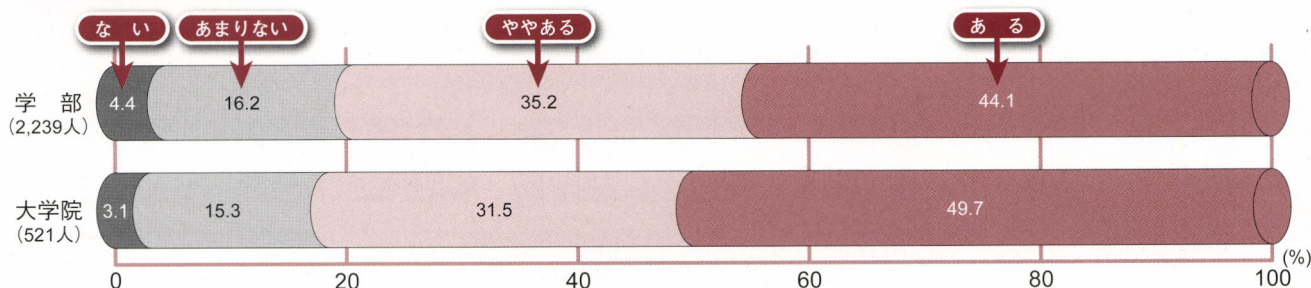
また、学部学生では「ある」、「ややある」の回答が8割に対し、大学院学生では9割に達しています。学部間を相対的に見てみると、国際教養学部では関心が高く、理工学部では関心度が低いという傾向が見られました。

文化や国籍の枠を越えた学生相互の異文化交流に関心がありますか

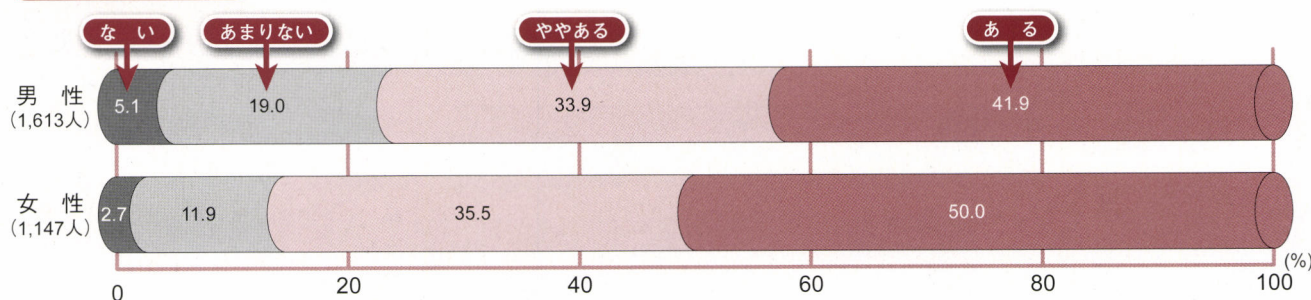
全 体



学部・大学院別



男女別

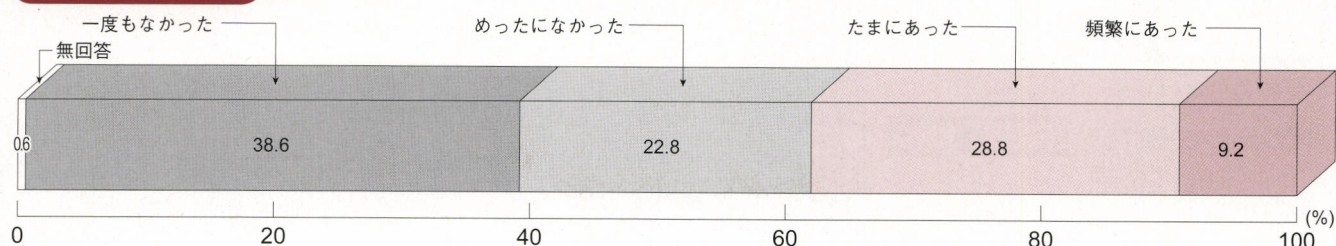


実際の異文化交流体験については、おおよそ4割弱の学生が異文化交流を体験する機会が「頻繁にあった」、「たまにあった」と回答しています。男女を比較してみると、女性の方が「頻繁にあった」を挙げた率が高くなっています。また、学部学生では36%が、大学院学生は46.5%が体験する機会があったと回答しています。関心が高いほど、実際の体験頻度が高くなる傾向が見られます。次

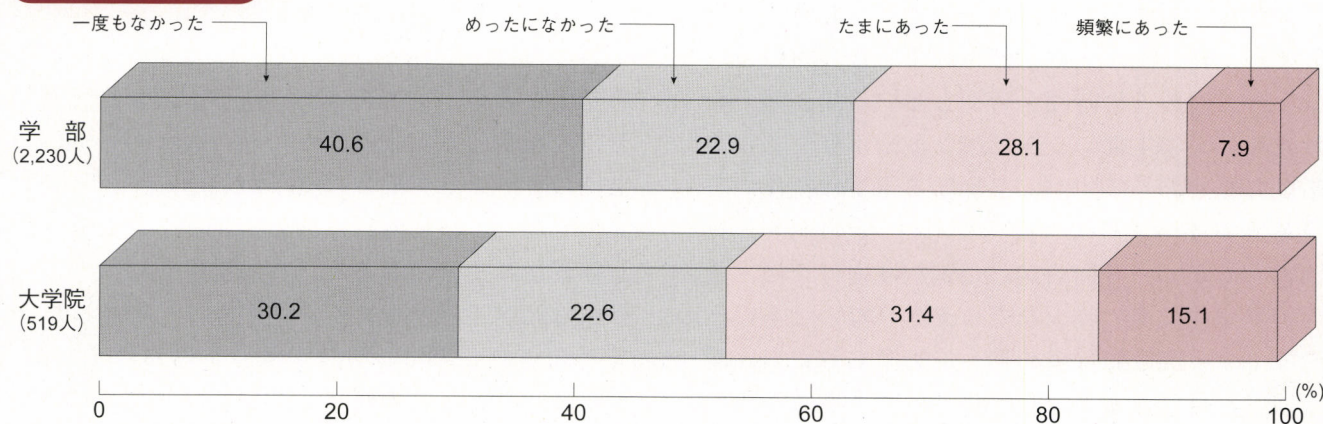
の項でふれますが、学生の皆さんが考える異文化交流には、さまざまな形や考え方があることがうかがえました。異文化交流の機会があれば、関心をもつきっかけになるでしょうし、普段から関心が高ければその機会を積極的に捉えるとも考えられます。また、異文化交流の体験の頻度が高いほど、大学生活が充実「している」と回答する割合が高くなっています。

入学してからこれまでの間にキャンパスで、学生同士の異文化交流を体験する機会がありましたか

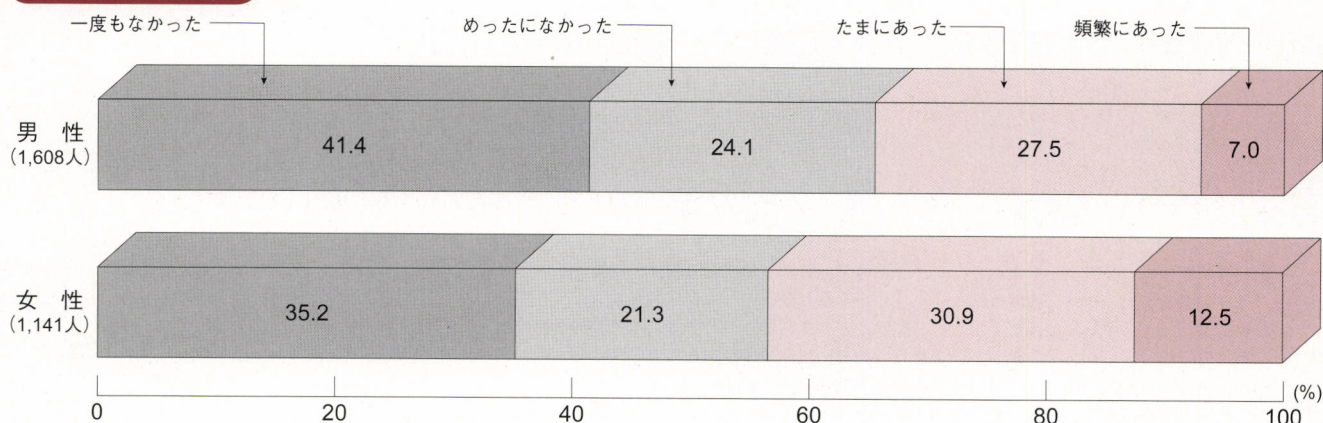
全 体



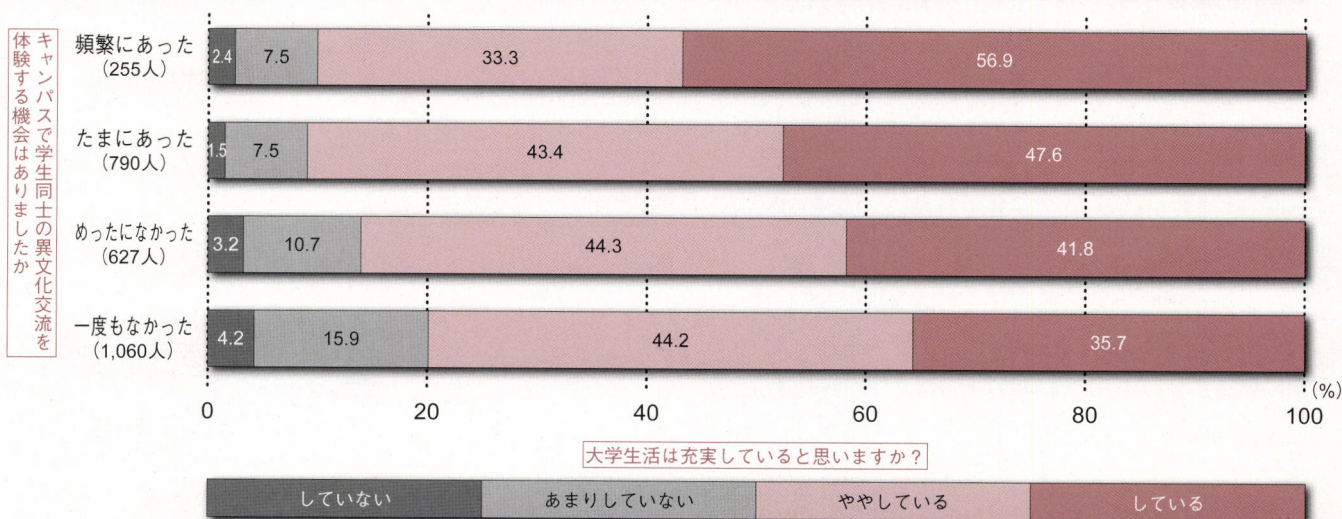
学部・大学院別



男女別



クロス集計 入学してからこれまでの間にキャンパスで、学生同士の異文化交流を体験する機会がありましたか
凡例 大学生生活は充実していますか？





異文化交流のとりえ方はさまざま

異文化交流の機会

POINT

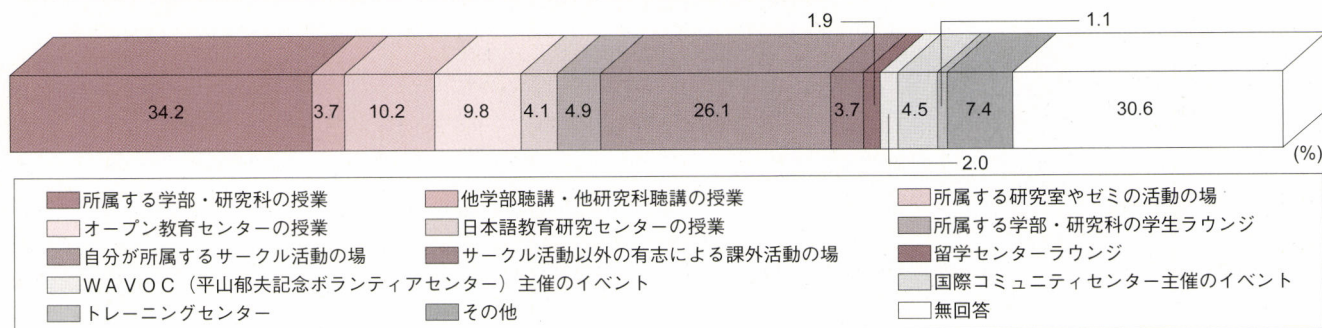
交流の機会、場所:「所属する学部・研究科の授業」**34.2%**、
「自分が所属するサークル活動の場」**26.1%**

異文化交流を体験する場所や機会として、授業とサークル活動が主に挙げられました。これらは、学生が普段多くの時間を費やしている場と考えられます。大学主催の交流イベントやボランティア活動の場がありますが、参加する学生は全体から見ると少ないようです。ただし、「その他」、「無回答」も多く、今回設定した選択肢だけでは、学生の異文化交流の様子をとらえきれないともいえます。実際に「その他」で寄せられた自由記述回答を見てみると、日常生活のさまざまな場面で、留学生や日本人以外の学生と交流の機会をも

っていることが読み取れました。

男女の違いを見てみると、特に有意な違いではありませんが、女性の方が「日本語教育研究センターの授業」、「国際コミュニティセンター（ICC）主催のイベント」を挙げる率が若干高く、ボランティアとして積極的に参加しているのではないかと推察されました。また、大学院学生では、学部学生に比べて、サークル活動が減り、授業に加えて研究室やゼミでの活動が多く挙げられました。大学院学生としての研究活動が異文化交流につながるようです。

該当する異文化交流は具体的にどのような場所や機会では体験しましたか



異文化交流に期待するものとして「他国の文化を正しく理解すること」、「国際感覚を養うこと」「語学力を伸ばすこと」を、全体の半数以上の学生が挙げていました。自国以外の文化に興味を持ち、積極的に知ろうとしているようです。ただし、「その他」で寄せられた回答を見てみると、全体

から見て数は少ないものの、いろいろな考え方がそれぞれの表現で述べられていました。立場や意識の度合によって、多様な考え方があり、単純な選択形式の調査ではとらえきれないところがあったかもしれません。

文化や国籍の枠を越えた異文化交流に期待するものは何ですか [複数回答可]

